

平成 28 年度新規課題

研究区分	革新(地域戦略プロ)	試験期間	H28~30
課題名	各地域に適したリンゴ早期成園化技術の実証試験 1年生フェザー苗木を用いた早期成園化技術の確立と実証		
関連の重要研究課題名	I ブランド化に貢献できる果樹優良品種の育成 II 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発		
主担当試験場・部	果樹試験場・育種部 (共同機関 (研)農研機構果樹茶業部門、岩手園研他)		

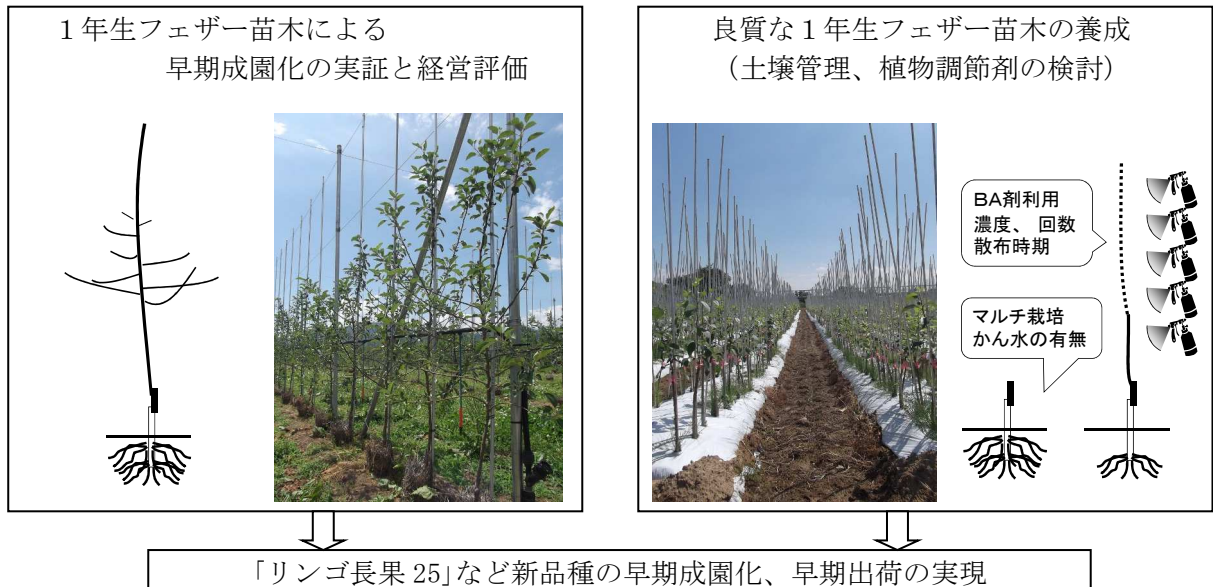
【現状と課題】

りんご新しい化栽培では、2年生フェザー苗木(カッツリー)を利用することが原則であるが、近年、苗木養成技術の進歩に伴い1年生フェザー苗木が供給されるようになってきた。育苗期間が短い1年生フェザー苗木が利用できれば、新品種の生産、市場出荷を加速できることが期待される。また、育苗期間の短縮により、苗木の供給量の増加や苗木価格の抑制も見込まれる。しかしながら、1年生フェザー苗木による開園事例が乏しく、経営面での有利性は明らかになっていない。

本試験では、新品種の「リンゴ長果25(シナノリップ)」について、1年生フェザー苗木による早期成園化を実証するとともに、フェザー発生本数が多いより良質な1年生フェザー苗木の養成技術を明らかにする。

【試験研究計画】

- 1年生フェザー苗木による「リンゴ長果25(シナノリップ)」の早期成園化の実証
 - (1) 現地実証圃の樹体生育、果実品質および収量の把握
 - (2) 現地実証圃の経営評価
- 「リンゴ長果25(シナノリップ)」の1年生フェザー苗木生産技術の確立
 - (1) 良質な1年生フェザー苗木育成のための土壌管理方法(マルチおよびかん水)の検討
 - (2) 良質な1年生フェザー苗木育成のための植物生長調節剤利用の検討



【期待される成果】

- 1 「リンゴ長果25(シナノリップ)」等新品種の普及加速
- 2 りんご新しい化栽培の普及加速
- 3 産地の維持・活性化と国産リンゴ果実の安定供給